

1896-1909

「札幌農学校の大学昇格」

高等教育機関の系譜

1870年代、明治政府の中央省庁は近代国家を担う専門知識を有する人材を養成するため、独自に高等教育機関を設立した。その多くは、1890年までに帝国大学（後の東京帝国大学）が分科大学（現在の学部に相当）として再編していった。法科・文科・理科大学や医科大学は、徳川幕府の洋学機関を源流とする文部省管轄の学校であり、法科大学には司法省設置の学校も合流した。工科大学は工部省設置の学校、農科大学は内務省から農商務省が引き継いだ学校を前身とした。中央省庁の学校の内、帝国大学が包摂しなかったのは、陸・海軍省の学校と開拓使が設置した札幌農学校である。

札幌農学校は開校にあたり、所定の課程を修了した者に「大学及第ノ免状」（Bachelor of Science）を与えることを定め、本科卒業者に学士号を授与した。札幌農学校は、制度上は大学として位置付かなかったが、帝国大学の分科大学と同等の水準を備えていたと言える。

大学昇格への機運

1897年、日本で二校目の大学として京都帝国大学が開学した。その前後から政府・文部省ではさらなる大学増設の動きがあり、札幌農学校関係者の間でも大学昇格への期待が高まった。1896年の農学校卒業式では、北海道府長官原保太郎が、札幌農学校を基礎とした大学設置への期待を述べた。1898年に札幌農学校学芸会が発刊した学校紹介誌『札幌農学校』には「札幌帝国大学設立の必要を論す」と題した項目を掲載した。札幌農学校長佐藤昌介は機会があるごとに学校拡充・大学昇格を文部省や政府要人に働き掛けた。北海道教育会、札幌区会、北海道会や地域の有志も、札幌農学校を母体とする大学の設立を訴え、新聞・雑誌も大学設置の必要を論じた。

日露戦争や財政問題などから、こうした機運が下火になることもあった。加えて、当時、大学は複数の分科大学により組織する定めであったため、農学専門の札幌農学校が単独で大学に昇格するのは困難な情勢でもあった。

1906年、文部省は大学増設の予算案を立てた。内容は、①札幌農学校を農科大学（札幌）に昇格させ、理科大学（仙台）を新設して農・理の二つ分科大学による東北帝国大学を仙台に、②京都帝国大学福岡医科大学を独立させ、工科大学を新設して医・工の二分科大学による九州帝国大学を福岡に、それぞれ設立するという案である。しかし、ここでも財源が問題となり計画は頓挫しかけた。



『北海タイムス』1902年1月11日掲載社説

「北海道大学設立の必要を論す」



東北帝国大学農科大学長佐藤昌介

(1910年頃、大学文書館蔵)

古河家の寄附

その財源問題に古河家が援助を申し出る。後に総理大臣となる原敬内務大臣は、1906年の大蔵省に大学増設予算を削られた牧野伸顕文相から相談を受け、古河家へ国家文教のために私財を擲つ絶好の機会と勧奨し、大学増設のための百万円の寄附を導きだした。原敬と佐藤昌介は、少年時代、盛岡藩の藩校で机を並べた同郷・同窓の士でもあった。

東北帝国大学と九州帝国大学の設立が決まり、古河家は寄附事業として、九州帝国大学工科大学の4教室、東北帝国大学理科大学の1教室、そして東北帝国大学農科大学の「予科及実科教室」・「農芸化学教室」・「林学教室」・「畜产学教室」の4教室を建設した。この9つの建物の内、東北帝国大学農科大学の「林学教室」のみが現存している。現在の「古河講堂」である。

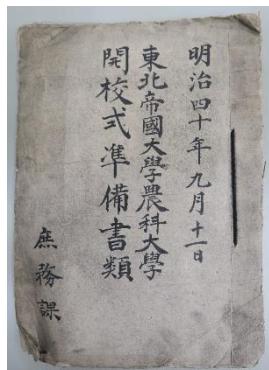
「古河講堂」は、札幌農学校の大学昇格と東北大学・九州大学の開設という歴史的事実を物語る建物である。

さらに大学の歴史と佐藤昌介・原敬の交友関係との関連を想起させる、歴史の生き証人とも言える。

東北帝国大学農科大学

1907年9月、東北帝国大学農科大学が開学した。農科大学には、農学・農芸化学・農芸物理学・植物学・動物学・昆虫学・養蚕学・園芸学・畜产学・農政学・殖民学に関する12の講座を設置した。その後、27講座へと拡充する。1913年には大学院も設置した。

1876年の札幌農学校開校式に24名の入学生の一人として立ち合った佐藤昌介は、農科大学開学式における学長の式辞で、小規模学校からスタートしたハーヴァード大学・イエール大学を引き合いに「本大学ハ僅ニ三十余年ノ経歴ヲ以テ漸ク学海に出ントス」と述べた。その表現には、札幌農学校が大学と同等の水準であり続けたことの矜持と、大学昇格に至る困難への感慨が満ちている。

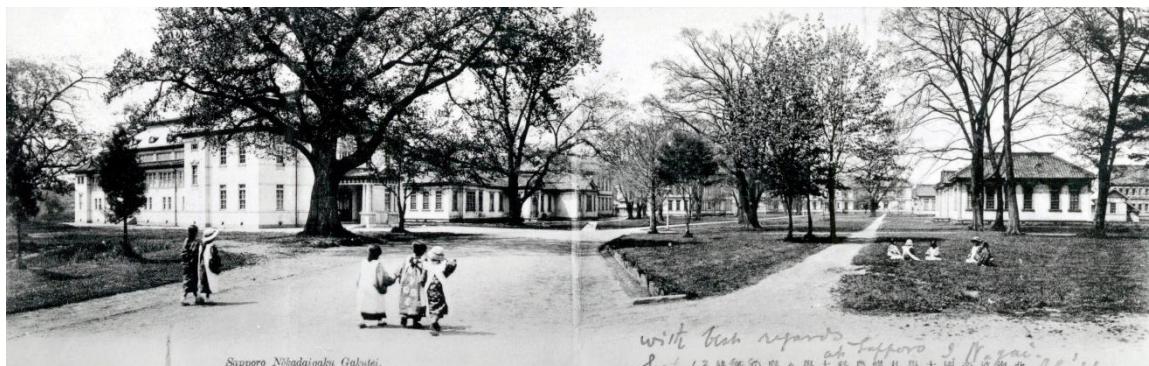


東北帝国大学農科大学開校式の

準備文書（1907年、大学文書館蔵）



農科大学正門（1910年ころ、大学文書館蔵）



農科大学校庭、林学教室の玄関前から南西方向を撮影（1917年、大学文書館蔵）

林学教室（現古河講堂）等建設

寄附金額 98 万 7,739 円のうち、東北帝国大学農科大学には 13 万 5,519 円があてられた。予科及実科教室、農学科硝子室、農芸化学教室・土壤分析室、林学教室（現古河講堂）、畜産学教室・獣医学実験室及病室など合わせて 1324.75 坪の建物が文部技師新山平四郎の設計により建設された。



新築間もない林学教室、現在の古河講堂
(1910 年頃、大学文書館蔵)

【年 表】

1896 年	7 月	—卒業式式辞で北海道庁長官が大学昇格への期待を述べる
1897 年	6 月	—京都帝国大学設置
1898 年	6 月	—学芸会編『札幌農学校』に「札幌帝国大学設立の必要を論す」掲載
1899 年	5 月	—佐藤昌介校長が農学校の大学昇格を文部省に申し入れ
	7 月	—北海道教育会が「札幌帝国大学設立建議書」を文部大臣に提出
	7 月	—札幌の有志者協議会が「北海道帝国大学設立建議」を文部大臣に提出
1900 年	2 月	—札幌区長が北海道帝国大学設立に関する意見を北海道庁長官・内務大臣に上申
	2 月	—札幌の有志が「北海道帝国大学設立期成同盟会」を結成
1902 年	1 月	—『北海タイムス』が「北海道大学設立の必要と論す」掲載
1905 年	11 月	—『北海タイムス』が「北海道大学設立意見」掲載 —北海道会が「北海道帝国大学設立ニ関スル建議」を可決
1906 年	5 月	—北海道庁長官が大学設置を含む北海道事業計画案を発表
	6 月	—札幌区会が大学設置に関する建議を可決
	8 月	—北海道協会が「北海道農科大学設置に付意見書」を文部大臣に提出
	12 月	—古河家が大学増設経費百万円寄附を申し出
1907 年	6 月	—東北帝国大学の設置を公布
	9 月	—1 日東北帝国大学農科大学設置、11 日開学式挙行
1908 年	8 月	—「予科及実科教室」新築
1909 年	4 月	—「農学科硝子室」新築
	6 月	—「農芸化学教室・土壤分析室」増築
	11 月	—「林学教室」「畜産学教室」「獣医学実験室及び病室」新築